

令和5年4月3日
株式会社シーエス・ワンテン
バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和5年4月3日（月）
 - ・開催方法 書面での開催
 - ・参加者 審議委員総数 7名
 - 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
 - 委員 関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
 - 野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
 - 芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
 - 松居 秀之（株式会社ピクス 常務取締役）
 - 松尾 健司（株式会社J-WAVE 編成局 エグゼクティブプロデューサー）
 - 山本 伸夫（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集委員）
- （衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）
- 福田 泉（代表取締役社長）
 - 中口 裕丈（編成局長）
- （番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社）
- 本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター）
 - 戸田 裕介（クリエイティブ&コンテンツ部 編成/タレント&ミュージック シニアマネージャー）
 - 星野 沙哉香（クリエイティブ&コンテンツ部 編成 アシスタントマネージャー）
 - 河内 英理也（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント本部 マネージャー）
- ・審議番組 「MTV Unplugged Presents: Ryokuo Shoku Shakai」
 - ・放送概要 2023年4月1日（土）21時～22時
 - ・番組内容

世界中のトップアーティストが出演し、独創的で個性あふれるアコースティックライブの源流としてその歴史を刻んできた「MTV Unplugged」。日本制作としては宇多田ヒカル、平井堅、西野カナ、KinKi Kids、幾田りらなど、一流アーティストが登場し、いつものライブとは一味違うパフォーマンスを披露してきた。今回、愛知県出身の4人組バンド「緑黄色社会」出演による「MTV Unplugged」を収録し、2023年4月1日（土）に放送した。バイオリン・チェロを入れたこの日限りのバンド編成で「Me!a!」といった代表曲から、椎名林檎のカバー曲などをアコースティックアレンジで披露。250名の観客に囲まれたセンターステージで、映像作品としてもバンドの魅力が伝わる番組制作を心がけた。

・委員からの意見・質問とMTVの回答

- 編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
- 映像作品として楽しく見る事ができた。近い距離間での有観客の「MTV Unplugged」が約3年ぶりということだが、その1回目をあえてのセンターステージにして、周りを観客で囲むというアイデアもよかった。どこを切り取っても、観客が映り込むので、ライブが戻ってきたことの喜びをより感じられたように思う。
- 観客の復活を見せることができた上で、バンドの実力も発揮でき、そして「MTV Unplugged」の良さも活かしきれた質の高いライブ番組であった。
- ライブ番組としてとても臨場感を感じることができた。何度でも楽しめる良質なコンテンツであり、アーティストの音、歌を堪能できる番組としてこれからも続けてほしい。
- マスク着用とは言え、アーティストの間近に観客が座っている映像は、アフターコロナを象徴するかのような高揚感を感じた。
- クラップ音が楽曲の中で自然に入ってくるのも、観客の高揚する気持ちが感じられ、視聴者としても同じ気持ちを持つことができた
- 紅白歌合戦の出演などを経て、緑黄色社会というバンドが最も注目されているこの時期に、質の高いオリジナルライブを実施できるMTVのブッキング・企画力は素晴らしいと感じた。
- アコースティックであることで、緑黄色社会のバンドの魅力が強調され、ここまで音楽性の高いバンドということを再認識させられた。
- 長屋さんの力強い歌唱力、Peppieさんの繊細なピアノ、穴見さんのベースアレンジのセンスの良さ、小林さんの丁寧な演奏など、どれをとってもレベルが高く感じた。
- センターステージという設定は、バンドとの相性も良かったのではないかと思います。ステージを装飾する道具セットも違和感なく、彼らの音楽世界や楽曲表現の助けとなっていたと感じた。
- センターステージは、向かい合って演奏出来るだけでなく、アーティストと観客が同一ショット内に撮ることが可能で、そのメリットを生かした映像もMTVならではの感

- じた。視聴者も色々なアングルでメンバーの姿を見ることができたと思う。
- 立体的なカメラワークでメンバーの表情や演奏を巧みに捉えており、臨場感に溢れていた。
 - 音響バランスが全体的にとても良かった。ボーカルと楽器のバランス、アンプラグドタイプの肝ともなるストリング系のアレンジやレベル感も適切だったと思う。
 - バイオリン・チェロを入れたバンド編成が、普段目にする事が出来ない緑黄色社会となっていて、多彩な音色を堪能することができた。
 - とても良く練られたセットリストだったと感じた。番組の中で、だれることはなかったのは素晴らしいと思う。
 - 「キャラクター」「Me l a !」などの代表曲を要所に入れつつ、一方で椎名林檎さんのカバー「ありあまる富」もあることで、ファンはもちろん、彼らのライブが初見の視聴者でも楽しめる内容で、一般性とスペシャル感をうまく両立していたと思う。
 - ジャズっぽいアレンジの「ミチヲユケ」、ストリングスが際立つ「アラモードにワルツ」など、アコースティック編成でも重厚に聴かせる曲が目立つ印象を感じた。音数少なめの「幸せ」「サボテン」などでは、長屋さんの息づかいやボーカルの細かいニュアンスなども聞こえてきて「MTV Unplugged」ならではの楽しみが随所にあった。
 - 多少希望を言えば、アコギのみ、ピアノのみなど、さらに音数の少ないアレンジの楽曲も聴いてみたかった。
 - ステージのランプや絨毯、照明も非常に効果的だった。幻想的な会場の雰囲気を感じることができた。
 - 照明に関して、センターステージということもあり多少無理のある場面や、光量が足りないシーンもあると感じた。しかし、全体的には展開も悪くなかったため、そこまでは気にならなかった。
 - 音と映像に引き込まれたためか、いつもはバンドやメンバー紹介のテロップが欲しいと感じることが多いが、今回は最後までそのように感じることはなかった。
 - 衣装の色合いが重かった印象もあるが、アンプラグドらしいフォーマルなものであったため、この番組の特別感が伝わった。
 - MCや説明的な要素がほとんど無いため、初めてこの番組を見る人が「MTV Unplugged」とは何か、どのメンバーが緑黄色社会で誰がサポートなのか、などを理解しないまま終わる視聴者もいるのかなと思った。
 - MCが少ないことは曲を堪能する意味では良いかもしれないが、緑黄色社会というアーティストを知らない視聴者への配慮として、MCによる曲の説明や観客とのやり取りなどが入ると良かったと思う。
 - 聞き入ってる表情、ノっている観客等、もう少し観客の抜きを入れた方が久しぶりの観客入りのライブ感が出たのではと思った。

- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和5年4月3日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日
令和5年4月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、M T Vでの放送内でも公表する予定。

以上